東アジア経営学会国際連合
産業部会会報
International Federation of East Asian Management Associations
The Newsletter of IFEAMA Industry Section

第20号
2021年7月

「渋沢栄一（敬称略）に学ぶ」

文　　折原　浩（株式会社ディセンター代表取締役社長　産業部会幹事）

2024年新1万円札に描かれることが決定し、NHK大河ドラマなどで注目されている渋沢栄一。
今なお社会に影響を与え続けている多くの会社や組合、しくみを作り、日本経済に多大な影響を残し続けていることから「資本主義の父」と呼ばれています。
昨今、既存のビジネスモデルや経営手法が通用しなくなってきたと言われ、コロナ禍以降、ますます、その傾向は強くなってきました。何をやるのか、ということに関しては、市場や時代の傾向や業界の特徴などもあり、一概に論じることができませんが、どのようなことを考え、どのような経営スタイルを志向すればよいのか、に関しては、各業界に共通する考え方があるはずです。
そのような中、今、渋沢栄一がクローズアップされてきたことは必然なのかもしれません。
渋沢栄一は比較的近代の偉人ですので、多くの言葉が残っています。私たちは、その言葉の一つ一つを様々な視点から解釈をしてきました。発言の真意は、前後の文脈、当時の時代背景や日本や渋沢栄一が置かれた状況を総合的に判断しなければなりませんが、渋沢栄一の言葉は、コロナ禍で苦しむ私たちに向けられたものではないかと錯覚してしまうほど、現代の中小企業経営に必要な考え方を示唆しています。
渋沢栄一の魅力は、その実績や教えだけではありません。彼の人生そのものが、成功だけでなく、むしろ波乱万丈であり、多くの失敗や間違いを犯しています。その人間臭さが、私たちにより身近な存在として感じられ、実践的な体験からくる言葉の重みを感じさせてくれます。
著者は埼玉県の中小企業を経営している家に生まれ育ったのですが、祖父の経営哲学や気質が渋沢栄一翁とどうしてもダブってしまいます。もしかしたら、渋沢栄一とは、昔の武州商人、いや、日本の経済人に流れていた経営哲学の象徴なのかもしれません。したがって、渋沢栄一について考えることは、温故知新、すなわち、私たちの先祖が持っていた英知について、現代人の私たちが改めて考え、時代に対応したり、後世に残したりすることなのかもしれません。

「そも人生の運というものは、十中の一、二、或いは予定があるかもしれぬ 。しかしながら、自ら努力して運なるものを開拓せねば、決してこれを把持（はじ）することは不可能である」

渋沢栄一は、宿命は宿る命なので変えることができないが、運命は運ぶ命なので変えることができると説いています。また、

「くしくも、世の中に逆境は絶対にないと言い切ることはできないのである。ただ順逆を立つる人は、よろしくそのよって来るゆえんを講究し、それが人為的逆境であるか、あるいは自然的　逆境であるかを区別し、しかる後これに応ずる策を立てねばならぬ」

コロナは外部環境でそれ自体はどうにもならないけれど、自分で行動できるところは、なぜそうなったのかを考え、行動することで必ず良い流れがくると言っています。

私たち、産業部会は、中小企業の発展に寄与することを目的の一つとしています。そこで、渋沢栄一の行動や考え方、言動から、今、コロナ禍で苦しむ中小企業へのヒントを会員の皆様に発信できたらと思います。
近年、渋沢栄一について書かれた本は たくさんありますが、このシリーズでは、渋沢栄一の人物像や言動を、独自の視点から、見ていきたいと思います。皆さんの新たな渋沢栄一像の一つになればと思います。

渋沢 栄一
（深谷市より）

『SDGs 時代の事業戦略―バングラデシュにおけるグラミン・ユーグレナ社の事例を中心に』

林　倬史氏（立教大学名誉教授）

開発が遅れているバングラデシュにおいて、多数の貧困下にある農民層と同時にロヒンギャの人たち（ミャンマーからの難民）の飢餓状況に対して、画期的成果を示している「グラミン・ユーグレナ社（注 1)」の事業戦略を SDGs の視点（Goal 1 の極度の貧困解決と Goal 2 の飢餓の解消）から紹介する。

同社の当初の基本的な事業モデルは、貧困が集中する現地農民に緑豆栽培技術を指導し、品質条件を満たした緑豆を現地市場価格以上で買い取り、主に日本に輸出することによって収益を確保しながら、現地農民の所得向上に貢献することにあった。

緑豆は日本ではもやしになってから食材とするのに対して、現地では、コメやカレーとともにそのまま食材として用いている。したがって、食料品の輸出は規制措置が厳しいうえに、日本でもスーパーの目玉商品として極めて低価格で販売される傾向にある。

そこで 2020 年に入り、緑豆に加えて、ゴマの栽培も新たに導入した結果、緑豆栽培の契約農家数が約 5000 農家、ゴマ栽培農家数が 10,000 農家にまで増加している。ゴマの輸出は規制がなく、しかも日本への輸出価格は、緑豆の価格より高値に安定している。その結果、現地農家との契約もより長期化し、現地農民の所得向上と家庭の財政基盤をよりサステイナブルなものしている。

こうしたシステムが持続することによって、農村家庭の子供たちの安定的栄養・教育基盤が保証され、将来的に必要となる、より高度な職業人としての専門的知識の獲得とミドルクラスへの展望が開かれてくることになる。

さらに、同社は、2019 年から WFP(国連世界食糧計画) との提携により、難民キャンプに収容されている 80 万人以上に及ぶロヒンギャ（ミャンマーからの難民）の人たちへの食糧援助の一環として緑豆を提供するプロジェクトを始めている。同国南部での契約農家で栽培された緑豆を、WFP の援助資金で同社が買い取り、それを難民が WFP の資金援助によって配布されたバウチャーで緑豆と交換して食料を確保する仕組みとなっている。

こうした同社の事業システムは、１）農民層家族のサステイナブルな生活と子供たちの教育基盤、２）農村経済の活性化、３）農村における工業製品需要の増大による製造業をはじめとする産業インフラの整備、４）緑豆とゴマの輸出による外貨の獲得と必要製品の輸入、等へと国民経済全体をポジティブな循環へと連動させて、中間層の台頭へと導く原動力的役割を担っていると言える。

グラミン・ユーグレナ社の事業は、バングラデシュのユヌスセンターが高く評価している事業モデルであると同時に、国連が目標とする SDGs の Goal 1 と Goal 2 に適応した事業戦略であると言える。こうした事業モデルが連続して登場することによって、国民経済全体の底上げと政治的民主化、富の再配分、所得格差の縮小と社会関係資本の充実へと歯車を動かしていく原動力となることを期待したい。

（注１）M. ユヌス氏（2006 年ノーベル平和賞）を代表とするバングラデシュの NGO 組織の Grameen 財団と日本のユーグレナ社との共同出資によって設立された。同国大衆の貧困と生活の改善を主たる目的とするソーシャル・ビジネス事業体である。

Topics ≫追悼　蘇東水先生（中国（元）復旦大学首席教授・中国国民経済管理学会会長）

2021 年 6 月 13 日、蘇東水先生が逝去され、6 月 19 日ご葬儀が中国・上海市で行われました。
蘇東水先生は産業部会幹事の陳藝紅氏のお父上・陳志誠先生（北京）と呼応して中国の経営学会をまとめ 東アジア経営学会国際連合（IFEAMA ）の創設に尽力された（故・野口祐先生の）同志でした。蘇東水先生のご貢献に感謝するとともに、謹んでご冥福を祈ります。
南京の河海大学・于金教授にご手配いただき、IFEAMA 産業部会として供花を差し上げました。
以下、于金教授より頂いたご葬儀のご報告メール（の一部）、および塩地 IFEAMA 会長および望月 IFEAMA 産業部会会長の追悼文を掲載いたします。

【于金教授よりのメール】
雨の中、蘇東水先生の告別式が盛大に行われました。式場の様子から数百人が参列したと思います。告別式が午前 10 時より始まり、復旦大学副書記、復旦大学管理学院（蘇東水先生生前所属の部署）院長、蘇東水先生教え子の代表がそれぞれ告別の辞を述べたあと、ご家族の代表が謝辞を述べました。参列者が黄色いチューリップを差し上げ、蘇東水先生に最後のお別れを告げました。復旦大学管理学院院長の告別の辞で「IFEAMA」の名前をあげました。

【IFEAMA　塩地洋会長から頂いた追悼文】
Dear Professor ZHANG Yang, Professor YU Jin and all IFEAMA China members
We are very sorry to hear about Professor SU Dongshui's passing.
Professor SU Dongshui, as a co-founder of IFEAMA, made a great contribution to the development of IFEAMA.
If there is anything we can do to help IFEAMA China, please let us know.
"Professor SU Dongshui, may your soul rest in peace".
Please accept our deepest condolences from All IFEAMA members.

Hiromi SHIOJI, President of IFEAMA

【東連産業部会　望月邦彦部会長から蘇東水先生ご遺族に宛てた弔意文】
蘇東水先生ご逝去の報に接し、哀悼の念に堪えず、謹んでお悔やみ申し上げます。亡き先生と私の恩師野口佑先生は特別に親しい関係にあり肝胆相照らす中でした。東アジア経営学会国際連合は両先生のお話の中から始まったと申し上げても過言ではありません。野口先生は蘇東水先生との友情、信頼 、敬意を私にいつも語っておられました。今頃はあの世で再会語り合って居られると思います。
私も慶応義塾大学野口佑ゼミナール 1 期生として、野口先生とは恩師であり時には同志、兄弟のような関係にあり常に先生のお側におりましたので蘇東水先生とお会いする機会がありました。2004 年 9 月に立教大学での東アジア経営学会国際連合 7 回大会には奥様同伴で来日 お会いしたこと、2019 年 11 月 南京での [world water valley forum] に参加した折、上海のご自宅を訪問、先生ご家族とお会いし長時間お話し出来たこと思い出尽きません。奥様 御子息様 お嬢様 お寂しいでしょうがお身体くれぐれもご自愛下さい。蘇東水先生のことを思へば先生はお側においでになります。心丈夫にお過ごし下さい。

慶応義塾大学野口佑ゼミナール 1 期生　望月邦彦

【第6回年次総会のご案内】※リモート（Zoom）にて実施致します

■日　程：2021年 8月 21日（土）

■時　間：午前10時～12時（総会約10分、講演は各30分講演、20分の質疑応答を予定しております）

■講　演Ⅰ：幸田 達郎氏（文教大学人間科学部教授）

「心理学的側面からみた日本企業の人事制度―これまでとこれから―」

（組織運営の根底にある原理や組織の中での個人の行動を人事制度を切り口に、心理学と経営学の双方の視点からわかりやすく解説して頂きます。）

■講演Ⅱ：木村 幹夫氏（株式会社トーラス　代表取締役）

「加速する不動産DX ～FinTechと同様に、PropTech技術は革新する」

（「不動産ビックデータで、情報の非対称性を解消して世の中を良くする」というビジョンを掲げて、2003年に、(株)トーラスを設立。銀行員時代に不動産登記簿の価値に気づき、不動産情報というビックデータの事業化に乗り出しました。不動産テック分野で革命を起こしています。）

■参加申し込みの方法：参加費は無料ですが、事前の参加申込みが必要となります。
下記の事務局メールからお申込み下さい。
事 務 局：info@ifeama-jis.com
メール受付後にミーティングＩＤとパスワードをお知らせします。

§会報誌バックナンバーのご紹介（主な内容）

・第19号　第11回サロン『ロシア経済・経営の現状と課題』加藤　志津子氏（明治大学教授）
（2021年5月発行）

・第18号　グレート・リセット
激変するコロナ後の世界と人生百年時代の個人のあり方について　長田　邦博氏
（2021年1月発行）

・第17号　第5回年次総会の報告及び総会講演の内容
『大学のリソースを使った地域経済活性化の事例研究』　渡邊　明氏（三重大学名誉教授）
『時代をまとい伝統はまた進化する』　佐々木　優弥氏（有限会社翁知屋　代表取締役社長）
（2020年10月発行）

・第16号　特別講義『アジア・アフリカ企業のリープフロッグ的発展』那須野　公人氏（作新学院大学教授）
（2020年7月発行）

・第15号　特別講義『自動車産業における部品国産化ライフサイクル』塩地 洋氏（京都大学経済学部教授）
（2020年4月発行）

・第14号　第10回サロン『太平洋諸国の放置車両の解決のために』塩地 洋氏（京都大学経済学部教授）
（2020年1月発行）

・第13号　第4回年次総会の報告及び総会講演の内容　（2019年10月発行）
『あるIT企業の成長・挫折再生カリスマ経営者を支えた視点から』
福山 義人氏（株式会社マネジメント・サポート代表取締役社長、元CSK HD代表取締役社長）
『アジア企業と日本企業製造業における経営課題』　板垣　博氏（武蔵大学教授）

【編集後記】

コロナワクチン接種が進んでいますが、東京オリンピック開催後の感染状況がどうなるか不安が続きます。コロナ禍で苦しむ中、今話題の渋沢栄一の言動を新たな視点から学ぶシリーズを本号からスタートしますのでご期待ください。5月のサロンから高崎商科大学の松永教授が主催する松永経営フォーラムも参画しネットワークが広がりました。林倬史氏の講演では、SDGs の視点である「極度の貧困解決と飢餓の解消」について改めて問題意識を深めることができました。
末筆ながら、蘇東水先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

■発行責任者：望月邦彦（産業部会 部会長）
■発行日：2021 年 7 月　■各種お問い合わせ先：産業部会事務局　幹事：飛田
■E-mail：info@ifeama-jis.com　■Home Page：http://www.ifeama-jis.com/